

留学生からのたより

アメリカ

藤田 一照

ごぶさたしております。先日は『宗教と現代』『女性佛教』を送って下さりありがとうございました。自分の拙い文章がああいう雑誌に載って少々気恥しい気がします。

さわやかな初夏をむかえ畑仕事が本格的に始まりました。4月末から5月はじめにかけてロスアンゼルス市の禅宗寺の坐禅会のみなさんがタサハラ禅センターで3日間の摂心をもたれ私を講師として呼んで下さいましたので、行ってまいりました。今月はもうひとつ近くの Insight Meditation Center という南方佛教系の Meditation をしているところで典座教訓の話をする事になっています。来月はボストンの同じような Meditation Center で「磨磚作鏡」というテーマで話をします。曹洞宗の僧がこの界限にあまりいないので私のような未熟者にもこういう依頼があるのです。自分の勉強と思ってひきうけさせてもらっています。

先日、例の修道院を Easter 祭の折にたずね、古式にのっとりた儀式に参加させていただきました。ある神父さんとも個人的にインタビューをしました。もう一度つっこんだところをきいてそのうちひとつの文章にしようと思っています。この神父さんは16歳の時からこの道に入られ現在45歳の方です。来歴、修道院での生活ぶりを中心にうかがいましたが、現在アメリカのキリスト教界の一部で進行中の瞑想ブームに対して伝統に立つ側から興味深い意見をいただきました。(この方はイギリス出身です。)東洋の修行法(Yoga や坐禅)の影響をうけてキリスト教の伝統の中に埋もれていた瞑想行を復活させようという動きがキリスト教の活性化の一端として進行中ですが、これをどう見るかというところに焦点をあててひきつづき学んでいきたいと考えています。またベネディクト会の会則を我々の清規の観点から検討してみると、双方の「僧院」という修行形態の異同が浮きぼりになるのではないかと、今、漠然とですが思っているところです。

はなはだ簡単ですが近況を述べさせていただきました。

2月の伝達式には参加できませんでしたが、他の第9回留学僧の方々にもよろしくお伝え下さい。

合掌

留学生からのたより

オランダ

早川 敦

理事長先生におかれましてはますます御清栄のことと御慶び申し上げます。

今週より第三学期がはじまりボーデヴィッツ教授のシュヴェーター・シュヴァタラウパニシャッド、ファン・ダーレン博士のヴィシユヌプラーナその他の授業に出席しております。先日ヘーステルマン教授と修士論文のテーマについて協議し、古代インドの葬儀について研究したらどうかとの指唆を頂きました。葬礼の研究を通じて古代インド部族社会の構造に迫ることができれば、仏教研究の面からも面白いかと存じます。

6月に佐藤誠司氏がキール大学に留学が決定との知らせを耳にいたしました。同氏にとってもインド学研究室にとっても慶賀すべきことと存じます。誠に研究室ぐるみで御恩にあずかり、感謝の言葉もございません。権氏、佐藤氏と共に学問に励み、御恩を報じたく存じます。

まずは右まで。末筆ながら理事長先生の一層の御健康をお祈り申し上げます。 謹言

93年 4月24日